

# 第 1 章 苫小牧市の概要

## 第1節 地勢・気象

### 1 位置及び面積

本市は、道央圏南部に位置し太平洋を望み、道内外の人流・物流を結ぶアクセス拠点です。また、北日本最大の国際拠点港湾である苫小牧港と、北海道の空の玄関口である新千歳空港のダブルポートを擁し、陸路では、道央自動車道、日高自動車道、国道36号などの幹線道路や鉄路（JR室蘭本線・千歳線など）の交通結節点として各地に繋がっています。



#### 北海道陸路交通の拠点都市

鉄 道	JR室蘭本線、千歳線、 日高線への分岐点
国 道	36号（札幌－室蘭） 234号（岩見沢、旭川へ） 235号（日高方面へ） 276号（ニセコ方面へ）
自動車道	道央自動車道へ東・中央・西の 3か所のインターチェンジで直結。 高規格道路（日高自動車道）の起点

位 置	東 経	141° 36′ 34″
	北 緯	42° 37′ 53″
広 ぼ う	東 西	39.9 km
	南 北	23.6 km
	周 囲	124.5 km
標 高 (海 抜)		6.651 m
面 積		561.66 km <sup>2</sup>

資料：苫小牧市統計書 国土地理院全国都道府県市区町村別面積調

## 2 気 象

本市は、7～8月の平均気温が20℃前後と涼しい気候で、年間を通じて日照時間も安定しています。また、降雪量は札幌市の4分の1程度で、道内でも降雪の少ない地域です。

### ■月別概況（令和6（2024）年）

	平均気温 (℃)	最高平均 気 温 (℃)	最低平均 気 温 (℃)	平均湿度 (%)	平均海面 気 圧 (hPa)	降水総量 (mm)	平均風速 (m/s)	日照時間 (h)	降雪量 (cm)
1月	-2.4	1.8	-6.9	76	1014.8	59.5	3.1	133.3	81
2月	-2.2	1.8	-6.5	70	1020.6	21.5	3.3	157.0	31
3月	0.2	4.5	-4.2	69	1012.6	55.5	3.4	212.5	17
4月	8.1	12.4	4.4	77	1015.0	77.5	3.0	194.1	—
5月	12.0	16.3	7.9	78	1011.6	106.5	3.1	195.7	—
6月	16.4)	19.8)	13.5)	85)	1009.5)	70.0)	2.7	133.1	—
7月	21.7	25.0	18.9	85	1005.9	171.0	3.1	151.5	—
8月	23.4	26.5	21.2	88	1009.1	283.5	3.4	91.0	—
9月	19.4	24.1	14.9	76	1014.5	84.0	3.4	192.6	—
10月	13.6	18.3	8.3	76	1019.4	193.0	3.3	178.3)	—
11月	5.6	10.3	0.0	73	1017.3	50.5	3.0	131.6	—
12月	-2.5	2.3	-7.1	67	1010.5	19.0	2.8	157.3	13

※ 降雪量における「—」は「降雪なし」または「1cm未満の降雪」を示す。

資料：室蘭地方気象台

※ 降水総量における「 ) 」は、統計を行う対象資料が許容範囲で欠けているが、一部の例外を除いて正常値（資料が欠けていない）と同等に扱う（準正常値）。

### ■気象極値

区 分	極 値
最 高 気 温	35.5℃（平成19（2007）年8月15日）
最 低 気 温	−21.3℃（昭和20（1945）年1月18日）
月最大降水量	697.0mm（昭和56（1981）年8月）
月最小降水量	1.0mm（令和2（2020）年12月）
日最大降水量	447.9mm（昭和25（1950）年8月01日）
日最大降雪量	47cm（昭和43（1968）年2月20日）
月最大降雪量	105cm（令和4（2022）年1月）
最 大 風 速	31.8m/s 風向・南（昭和29（1954）年9月26日）
最大瞬間風速	38.6m/s 風向・南東（昭和56（1981）年8月23日）
最低海面気圧	965.0hPa（昭和45（1970）年1月31日）

※ 極値は、気象官署観測開始からの値を使用する。

資料：室蘭地方気象台

## 第2節 歴史・沿革

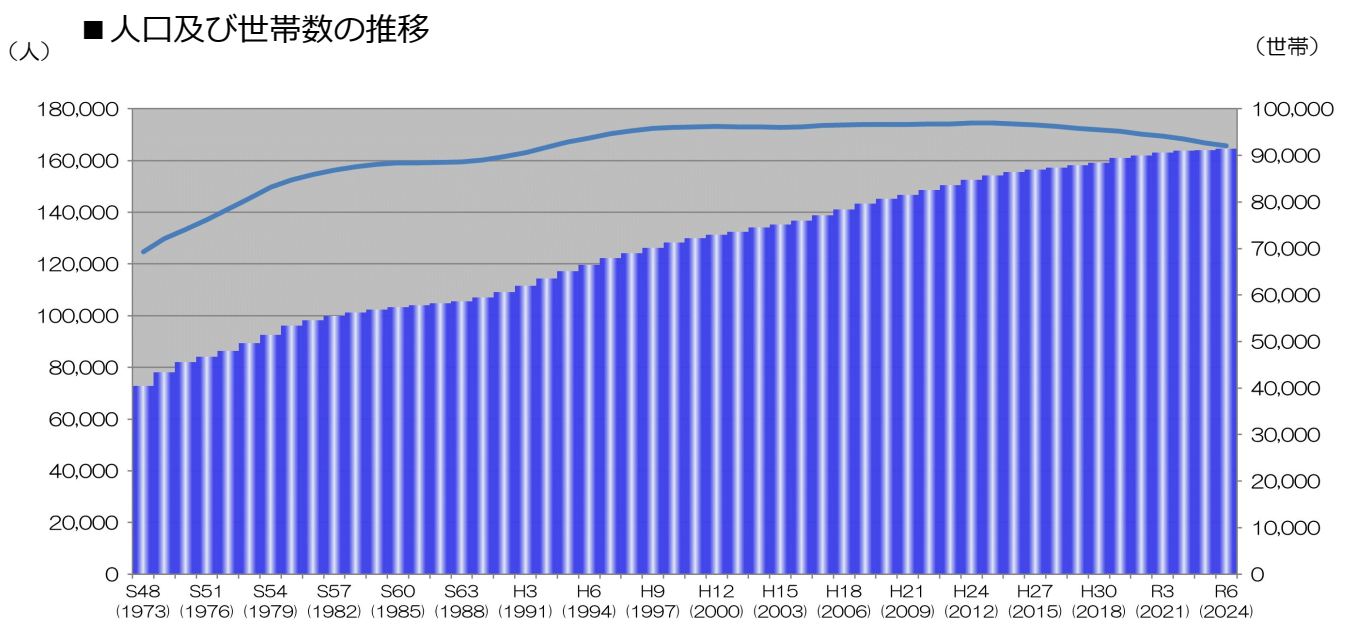
北海道には古くからアイヌ民族が暮らしており、苫小牧地方においても 15 世紀の半ば頃、道南に館を構えた小領主によって、アイヌ民族と和人の交易が行われていました。

寛政 12（1800）年になると、現在の東京都八王子市から八王子千人同心が勇武津（勇払）に移住し苫小牧の礎となり、明治 6（1873）年に開拓使が、勇払郡出張所を苫細（苫小牧）に移転し本格的な開拓が始まります。明治 43（1910）年に製紙工場の操業開始を契機に工業都市として歩みはじめ、昭和 26（1951）年に国家レベルの事業として日本初の内陸掘込港建設に着手、現在の苫小牧港（西港）が築られました。

高度経済成長期に入ると東部大規模工業基地の開発に伴って、昭和 51（1976）年に東港区の建設に着手、昭和 55（1980）年に第一船を迎え入れ、平成 13（2001）年以降、内貿取扱貨物量全国 1 位、令和 4（2022）年には港湾取扱貨物量全国 3 位まで成長し、現在では製紙業をはじめ石油精製・自動車部品製造業などの多種多様な企業が立地し、北日本最大の国際貿易港を有した産業集積都市として、発展し続けています。

## 第3節 人 口

苫小牧市政が始まった昭和 23（1948）年の 3 万 3 千人から、経済成長期に 16 万人まで増加し、平成 25（2013）年の 17 万 4 千人をピークに人口減少傾向にあります。令和 6（2024）年 12 月末の人口は 165,590 人（世帯数 91,421 世帯）となり、前年から 1,256 人の減（389 世帯の増）で、11 年連続で減少しています。



資料：苫小牧市統計書

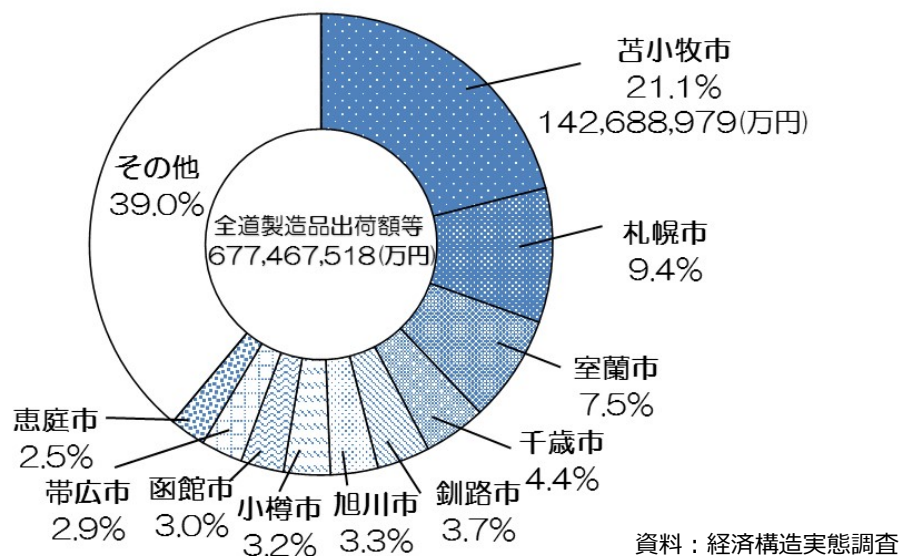
(注) 平成 24（2013）年 7 月以降の人口は、断りのない限り住民基本台帳法の改正により、外国人住民を含む。

## 第4節 産 業

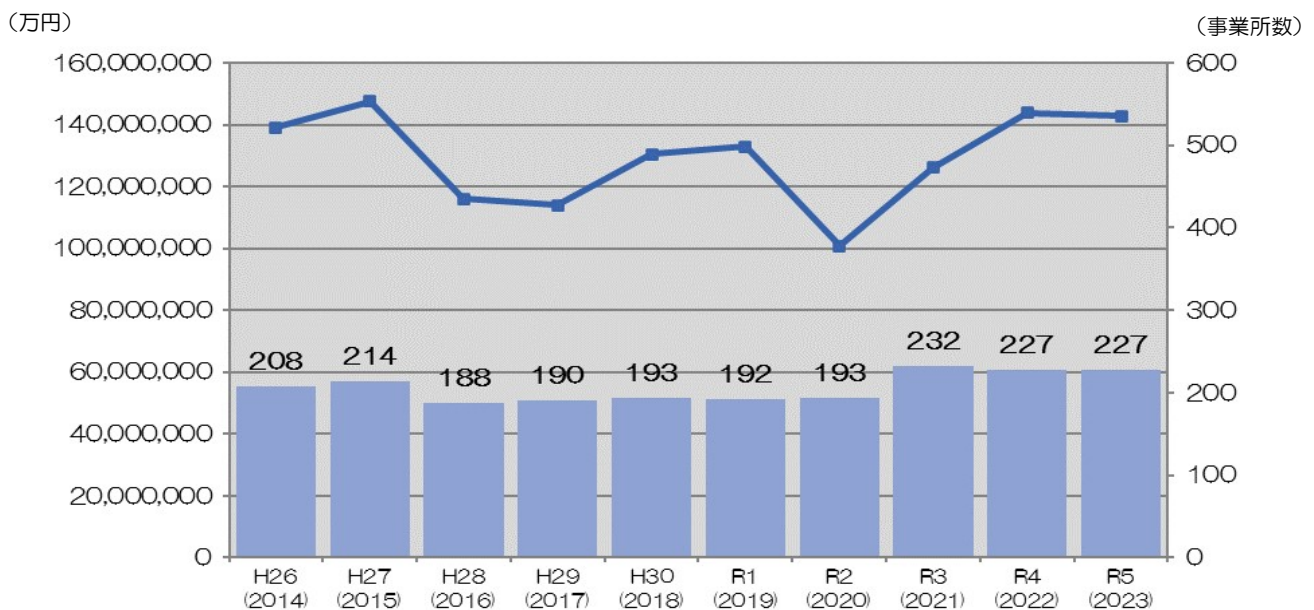
本市は道内最大の工業都市であり、製造品出荷額等では、人口で10倍以上を有する札幌市を上回り、北海道全体の21.1%を占めています。その中でも、石油製品・石炭製品製造業、輸送用機械器具製造業、自動車部品製造業、パルプ・紙・紙加工品製造業が特に盛んです。

また、本市における製造品出荷額等とその事業所数の推移を見ると、事業所の大型化傾向も見られます。

### ■ 製造品出荷額等道内都市別割合（令和6（2024）年調査（令和5（2023）年実績））



### ■ 苫小牧における製造品出荷額等及び事業所数の推移



資料：経済構造実態調査、経済センサス、工業統計調査

※「製造品出荷額等」とは、製造品出荷額、加工賃収入額、その他収入額及び製造工程から出たくず及び廃物の出荷額の合計である。